

工作

<用意するもの>

備品…工作ケース、工具箱、電動ドリル、木材、ホワイトボード&ペン

持ち物…軍手・帽子・水筒

<流れ>

①説明【5分】

- ・道具を持たない手は軍手を必ずつける
- ・道具説明（下敷き台・カギチ・ノギリ・グルガン・ウッドバーナー・小刀&彫刻刀、飾りなど）
- ・ナタは細心の注意を払い、必ず使い方の分かるスタッフと1対1で使用する
- ・工具ごとにエリアを設定し、まとめて使用する（特にカギチ・電源を使用するもの等）
- ・グルガンや電熱ペン等の電源を使うものは必ずスタッフとやる
- ・作るものが決まっていな人は本や作品集を見たり、スタッフと相談してね

②作りたいものが決まっている子に発表してもらう【5分】

- ・どんなものを作るのかざっと把握する
- ・釣り竿・弓矢は難しいため作り方の分かる担当をつける

③材料を選ばせる

- ・材料をいくつも確保する子がいるので、少しずつ持っていくように促す
- ・他の子の分が無くなるので、同じものを何個も使わない
- ・あまり巨大な物を作ろうとしている場合には時間もかかるし材料も限られているので、小さくできないか提案してあげる

④作る

- ・長期スタッフは他のスタッフの動きを見て指示をしたり（スタッフの配置・サポートの仕方・ルールの徹底など）、こども全体の様子をよく見る（困っている子・1人ぼっちの子等）
- ・上記注意事項を守れているか確認する

⑤作業終了（終了時間 15分前）

⑥片付け（工具・木材）、ゴミ拾い（クギ・木材）【5分】

- ・工作ボックスにスタッフがついてキレイに収納する
- ・ゴミ拾いは1人●個と数を決める（楽しませながらやるとうまくいく）

⑦作品を持って集合

⑧作品発表&写真撮影（全体・個別ともに）【5分】

- ・裏でスタッフが片付けの最終確認（特にクギやゴミ）、備品整理
- ・撮影時に完成確認（釘やトゲが出ていないか、すぐ壊れる状態ではないか）

⑨ケガの確認、（時間があれば→）ふりかえり（楽しかったこと・難しかったこと）【5分】

⑩作品に名前を書いて（直接書くか養生テープを使用する）、作品置き場へ持っていく

●鋸(のこぎり)

カットをするときは、木材が動かないよう足などでしっかり固定する。

木材の固定に手を使う場合は必ず軍手をし、あまり刃の近くに置かないように注意する。

刃が進む先には絶対に手を置かない。

木材をカットする前は、切り出し口に軽く溝を作っておくと、スムーズにカットできる。

刃渡りいっぱいを使って引く時に力を入れ、押す時には力を抜く。

なかなかカットできないからといって、無理矢理刃を動かしたり、大きな力を加えないようにする。基本的にノコギリは軽い力でもカットできる。

●金槌(かなづち)

ネイルハンマー

金槌よりも重心が打撃面に近いため、釘打ちの際に安定しやすく、初心者にも使いやすくとされている。

●金槌

・右手は素手、左手は軍手

利き手で持つ。最初は弱く打って、立つようになったら強く打つ

・手首のスナップ

●のこぎり

・引いて切るもの

・押す時は弱く、引くときに強く

・平行の方が力が弱くて済む

●棒やすり

・押して削る

・削るものを固定して、右手で持って、左手を添える

・自分から遠ざける方向に削る

●紙やすり

・素手でやるとケガすることがあるので

・出来るだけ治具を使用する

・はさみかた

●グルーガン

・電源刺してる間は熱くなりっぱ

・下に向けると中身が出る

・先っぽのオレンジ部分は熱いので注意

●電熱ペン

・グルーガン以上に暑いので注意

・使わないときはスタンドに立てる

●なた

- ・割れた竹でケガしないように
- ・振って切らないで、ハンマーでたたく

●電動ドライバ

- ・トルク（回転する力）は強すぎるとネジ山がダメになるので小さい数字から必要に応じて強くする

●丸のこ

- ・分厚い板などを
- ・人差し指でロックを解除してトリガーを引く

●グラインダ

- ・キックバック注意
- ・必ず両手で持つ
- ・右手で先の方を持ち、左手で根元を持つ
- ・ディスクは用途に応じて使い分け

●電動系のご盤

- ・抑えで木を抑えて切る
- ・小さいものは暴れやすいので注意
- ・ノコでできるものはノコでやらせる

●電動ドリル

- ・力を加えすぎるとドライバ本体が回転してケガをするので無理に押さえつけない

●サンダー